推薦枠が減少する中で姫路城との違いをアピールしていきます

世界遺産登録は、年々難しくなってきています。その理由の一つとして、世界遺産の数が増えてきたことから、ユネスコの世界遺産委員会の審査が年々厳しくなっていることが挙げられます。

これは、世界中で登録された遺産が多くなりすぎてしまうと、全ての遺産の保存が行き届かなくなるのでは、という考えがあるからです。

今後、推薦までの準備がより厳格に求められ、さらに国の文化遺産の推薦枠が1年に1件になることから、世界遺産登録までの道のりは容易ではありません。

彦根城の登録が難しい点の2点目は、先に登録された「姫路城（兵庫県）」の存在です。世界遺産に登録される条件として、「他には類をみない、顕著で普遍的価値のある遺産」であることが必要とされているため、同じ日本の近世城郭である姫路城との違いを強くアピールしていかなくてはなりません。

そのためにも、海外の専門家から意見を聞くことや、登録後の将来の管理計画などをしっかり立てておくことも必要です。

彦根城の「普遍的価値」

彦根城は、天下統一を成し遂げた江戸幕府の重鎮・井伊家の居城であり、250年余りに渡って平和を維持した武家政権の拠点の一つです。

「武威の象徴」である天守や櫓だけでなく、「権威を演出する舞台」だった御殿や大名庭園が保存・修復され、現在に伝わっています。さらに、大名井伊家やその家臣の暮らしを支えるために建設された城下町の面影が各所に残っています。

このように、彦根城は天守をはじめとする城郭施設、御殿と庭園、城下町という武家政権を象徴する各施設や遺構が総体として良好な形で残る点で、世界的に価値のある文化遺産といえます。

連携や啓発活動をすすめていきます

彦根市では、彦根城の世界遺産登録に向けて、彦根城世界遺産登録推進室、景観・まちなみ保全室（都市計画課）および彦根市教育委員会文化財部が連携して取り組んでいます。

文化財・景観などの保存活動はもちろん、世界遺産登録の取り組み状況を整理し、毎年文化庁に書類を提出しています。

また、文化財や世界遺産、城郭遺産に詳しい有識者などを委員とする彦根城世界遺産登録推進委員会、その下に具体的に実務を行うワーキング会議を設け、登録までの戦略などを決定しています。

さらに、滋賀県と彦根市が共同で彦根城の世界遺産登録を推進する「『彦根城』世界遺産登録推進会議」も設置しています。

最近の取り組みとしては、9月11日に彦根城博物館で、日本イコモス国内委員会委員を招いて彦根城世界遺産登録研究会を開催し、登録に向けての助言や取り組みに対する意見をいただきました。

他にも文化財に関する出前講座を開いたり、市役所駐車場前と彦根駅構内に看板を設置するなど、市民の皆さんや観光客への啓発活動を行っています。

▲日本イコモス国内委員会を招いて研究会の様子

▲市役所駐車場前の看板

活動の輪を広げていきましょう

世界遺産の登録は、行政だけでなく市民の皆さんと一体になった大きな盛り上がりが必要です。

市内での取り組みとしては、NPO法人彦根景観フォーラムによるまちづくり支援や、NPO法人による事業支援などがあります。また自治会などでもまちの景観を大切にしたまちづくりの活動が行われています。これらの活動の輪をさらに広げていただく必要があると考えています。

また、ゴミのポイ捨ての防止など、皆さん一人ひとりが文化財の保存・環境の保護に関しても今まで以上にご協力をお願いします。

これからも彦根城の世界遺産登録に向けて取り組みを進めていきますので、皆さんのご理解・ご協力をよろしくお願いします。

路地を生かしたまちづくりを　芹橋二丁目まちづくり懇話会

彦根城の普遍的価値の1つに良好に残る城下町の遺構が挙げられます。城下町の面影を構成しているのは、歴史的な建物だけでなく、路地もその一つです。

芹橋二丁目は、かつて彦根藩の足軽善利組の屋敷が多くあった地域です。市指定文化財の住宅があるほか、現在も道幅が1間半（約2.7m）のところや、防御などのために計画的にまっすぐ作らなかった道である「どんつき」「くいちがい」などが残されています。

「芹橋二丁目まちづくり懇話会」は、路地がある歴史的なまちなみの景観の保全や生活環境の整備・改善に向けた活動をされています。活動されている内容について、会長の橋本貢治さんと事務局長の渡邊弘俊さんにお聞きしました。

▲2つの「見張り窓」が残る辻番所と城下町の面影を残す道幅の路地
※現在工事中

▲「人に住んでもらうことがまちづくりの基本」と話す橋本さん

辻番所（※）の保存や活用方法を考える「彦根辻番所の会」から、本格的にまちづくりに取り組むことを目的に発足しました。芹橋二丁目は、学校に登校したり、買い物をしたりする場所に近く、静かでいいまちですが、さらに住み良いまちにするためにどうするかを考えています。「防災・防犯」や、多くなってきた「空き家・空き地」などの課題に取り組んでいます。

「住んでいてよかった」と思う人や、「古民家がある芹橋に住んでみたい」などという人を増やしたりするために、もっとまちの良さをアピールする必要があると考えています。

▲「人間関係をつくることがまちづくりには大切」と話す渡邊さん

地域に関心をもってもらおうと、運動会や町内の出来事などを掲載した情報紙『芹橋二丁目かわら版』などを発行したり、足軽善利組の屋敷の位置などを掲載したリーフレットを作成したりしました。

将来の芹橋の地域をどうするのかという「青写真（計画）」を、建築の専門家なども交えながら作っていきたいです。昔ながらの「くいちがい」などが残る路地を生かしたまちにしていきたいですね。

できた青写真には、個々の問題が出てくると思います。そこで、意見を出し合い、話し合いをしていくことが、本当のまちづくりにつながるのではないでしょうか。話し合いができる人間関係ができれば、「まちづくりができた」と思っています。

※辻番所　「見張り窓」を設けた建造物で、全国で唯一現存している施設として貴重。見張り窓は2方向の通りに面して2か所に設けられていて、通りに少し張り出している。城下への人の出入りをチェックしていたと考えられている。